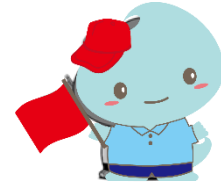




NPO 法人よこすかシティガイド協会

黒船



HP QR コード

発行：NPO法人よこすかシティガイド協会

発行日：令和7年 9月30日

責任者：理事長 小舟 浩治

編集：会報編集チーム リーダー 椿 孔平

URL: <https://yokosuka.kankoh-guide.com/>

13号

令和6年ガイド活動の概要

理事長 小舟浩治

当協会の主要事業であるガイド活動の成果を一覧表にまとめて報告する。全体合計では前年の4714人から16%増の5449人のゲストを案内した。

一、企画ガイドツアー

実施数が少なかったこともあり、ゲスト数は前年に比べて減少したが、1件当たりの参加者数は増える傾向が見られる。9月から12月にかけてのツアー参加者は20人前後だったが、1月から3月の平均参加人数は36人であり、募集定員の50人を超えるゲスト参加を得たツアーも2件あった。

二、依頼ガイドツアー

個人・業者の依頼ツアーを合わせて106件実施し、2809名のゲストを案内した。このうち浦賀ドックは51件、貝山地下壕は13件、走水低砲台が6件あり、この3ヶ所では実施件数の66%を占めている。観光業者による浦賀ドックツアーの依頼件数が増加したことにより、依頼ガイドのゲスト数は前年度より約800人増加した。

三、観光協会の依頼ガイド

日米親善ベース歴史ツアー、及び旧横須賀鎮守府長官邸ツアーを実施し、合計1074人を案内した。前年度に比べ長官邸ツアーの参加者が約200人増加した。

四、定期実施ツアー

毎月定期的に実施している貝山地下壕（月1回実施）のゲスト数は109名、浦賀ドックツアー（月2回実施）は509名、よこすか散歩（14回実施）のゲスト数は42名だった。

貝山地下壕、浦賀ドック共に前年度より参加ゲスト数は約200人減少した。これは1月に貝山地下壕で落石が発生したため、その後のツアーを休止していることもあるが、両定期ツアーが開始されて1年以上が過ぎ、開始当時の珍しさによる人氣が収まってきたためと思われる。定期実施ツアーのゲストの8割は市外からの参加者であり、よこすか散歩はまだ認知度が低いことから、参加人数が伸びない原因と考えられ、市外における広報の手法に一層の工夫が必要と考えている。

令和6年度ガイドツアー実績

ツアーの種類	令和6年		令和5年	
	ゲスト数 実施件数	比率	ゲスト数 実施件数	増減 伸び率
(1)企画ガイド	906人 31件	17%	992人 36件	△86人 △9%
(2)依頼ガイド	2,809人 106件	52%	2012人 74件	797人 40%
(3)ベース/ 長官邸	1,074人 6件	20%	867人 6件	207人 24%
(4)定期ツアー 貝山/浦賀	618人 32件	11%	811人 45件	△193人 △24%
(4)定期ツアー よこすか散歩	42人 14件	1%	32人 17件	10人 △31%
合計	5,449人	100%	4,714人	735人 16%

ガイドインクスギル研修

7月26日（土）、観光協会主催のプロガイドから学ぶガイドインクスギル研修会に会員17人が参加した。講師は古街道研究家として知られる宮田太郎氏で、これまでに3500回以上のツアーや講演をおこなってこられた大ベテランである。

今回の研修では、まず、宮田氏のホームフィールドである町田市内の鎌倉古道上道を歩くツアーを実地に体験した。旧小野路宿の小野神社に参拝し、その由緒を伺った後、野津田公園内に残る牧の跡や古代東海道の道幅10mの痕跡を確認した。続いて鎌倉古道の雰囲気や明瞭に残す樹林を歩いたが、あまりの暑さに予定のコースを踏破するのは困難と判断し、座学会場である四季彩の杜公園にバスで移動した。



座学では、道が判るとそれによって繋がる点と点のストーリーが共有されてくるという「道ism」や、五感を使った探索や、記憶に残る体験を重視するインタプリテーション型のガイドの薦め等、興味深いアドバイスや沢山いただき、バスで帰路についた。

（富澤 武夫）

■ 横須賀の名所紹介(第6回)

西海岸の見どころ

■ **立石海岸** 三浦半島の西海岸からは美しい富士が見える。中でも秋谷の立石海岸は、立石という奇岩と梵天の松と呼ばれる緑の岩場の背景に見える相模湾と富士が絶景だ。初代歌川広重は幕末にスケッチ旅行に来て、のちに画集「武相名所手鏡」を出版した。その中の「相州三浦 秋谷の里」で立石海岸からの富士の美しさを見事に表している。



立石海岸からの富士

明治になって葉山の御用邸ができ三浦半島を訪れるようになった明治天皇の嫡母「英照皇太后」が立石をたいそう気に入って、お茶寮を建てた。戦後、市に払い下げられ建物は無くなったが、その石垣は今でも残っている。

■ **荒崎海岸** 西海岸のもう一つの景勝地は荒崎海岸だ。茶色と黒の美しい縞模様の地層が白い波に洗われる風景はまさに自然が作り出した造形美。茶色っぽいのは泥岩、黒いのは海底火山の噴出物で、今から数百万年前に南方の海底で堆積した。その地層が移動してさらに隆起したもので、三浦半島がプレートの移動で出来た地質学的な「付加体」だということに気づかせてくれる。



荒崎海岸と弁天島

荒崎海岸から続くソレイユの丘下から和田長浜にかけての海岸は、まさに「海辺に生きる草花」の植物園だ。海崖ではハマカンゾウ、ワダン、イソギク、ボタンボウフウ、砂浜ではツルナ、ハマゴウ、ハマネナシカズラ、ハマヒルガオ、などが見られる。

■ **浄楽寺** 西海岸の見どころは素晴らしい景色だけではない。立石海岸からちょっと南の芦名にある浄楽寺もおすすめだ。芦名は三浦義明の弟為清が館や城を構えていたとされ、吾妻鏡にも出てくる十二所神社もある。浄楽寺の創建は、和田義盛が建てた三浦の七阿弥陀堂のひとつとも言われている。実際に、昭和 34 年には、阿弥陀三尊の脇侍の毘沙門天像胎内から発見された銘札により、文治 5 年(1189)に和田義盛が運慶に作らせたものであることが判明した。

【運慶仏のスゴさ①】頼朝が鎌倉で最初に作った勝長寿院の仏像は、奈良仏師の成朝に作らせた。しかし次の永福寺では成朝ではなく運慶に作らせた可能性が最近の研究で出てきた。浄楽寺の運慶仏が頼朝の好みだったのか。そうであれば、その永福寺の仏像がその後の運慶の京都奈良への進出へと繋がり、ついには運慶をして「古代から中世へ」仏像を変えた仏師と言わしめた、ということになる。浄楽寺の仏像は、運慶の歴史的発展の起点なのだ。



浄楽寺の運慶仏(阿弥陀三尊と脇侍)

【運慶仏のスゴさ②】戦後、浄楽寺の仏像が運慶作と判明した以降、その作風や胎内の銘札から全国で次々と運慶仏が発見されるようになった。そのため、明治の初めには東大寺南大門の仁王像しかないと言われていた運慶仏が今では 30 体以上も発見されている。伊豆の願成就院の運慶仏もこのようにして発見されたものだ。浄楽寺の仏像は、現代の運慶人気の起点でもあるのだ。

郵便制度の父と言われた前島密は、晩年、浄楽寺境内に建てた別荘、如々山荘で執筆活動をして過ごし、大正8年にそこで没した。生前、夫婦で富士を眺めた場所に、富士の形をした西洋風の墓が建てられている。今は建物が建ちそこらから富士は見えない。命日の近傍である4月下旬には郵政関係者らにより墓前祭が行われている。



前島密の墓

(篠原 均)

2025年度10月から3月までの企画ガイド予定

番号	実施日	企画ガイド名	見どころ	受付締切
2025-14	10/14(火)	大発見！夏島貝塚と明治憲法起草地巡り	明治憲法記念碑、夏島貝塚発掘跡、旧夏島砲台	10/7(火)
2025-13	10/19(日)	大発見！夏島貝塚と明治憲法起草地巡り	明治憲法記念碑、夏島貝塚発掘跡、旧夏島砲台	10/14(火)
2025-16	10/23(木)	衣笠城址から大楠山を越え浄楽寺運慶仏拝観	衣笠城址、大楠山の花、浄楽寺運慶仏拝観	10/16(木)
2025-17	10/25(土)	思ひ草「ナンバンギセル」を観音崎に求めて	観音崎灯台、海の見晴台、ナンバンギセル生息地	10/18(土)
2025-40	10/29(水)	浦賀道見取絵図を巡る その3 新善光寺から衣笠へ	新善光寺、猪俣/岡部両将墓、大明寺	10/22(水)
2025-18	11/10(月)	まんだら堂、名越切通を越えて元八幡宮へ	大切岸、まんだら堂、名越切通、元八幡宮	11/3(月)
2025-19	11/15(土)	江戸湾防備と会津藩	台場跡、能満寺、会津藩士の墓、観音崎第1砲台	11/8(土)
2025-20	11/17(月)	半島横断！津久井浜からソレイユの丘へ	高円坊からの絶景、電波監視所、ソレイユの丘	11/10(月)
2025-21	11/19(水)	おっぱま界隈ゆっくりぶらり～独園寺ご住職のお話拝聴～	平六トンネル、ポートパーク、独園寺	11/12(水)
2025-22	11/23(日)	明治の遺構・レンガドックと砲台跡の見学	千代ヶ崎砲台跡、燈明堂跡、浦賀レンガドック	11/17(月)
2025-39	11/29(土)	晩秋の朝夷奈切通を越え鎌倉へ	朝夷奈切通、光触寺、明王院、報国寺	11/22(土)
2025-23	12/6(土)	海軍航空発祥の地・追浜をゆく	旧海軍航空技術廠工場遺産群	11/29(土)
2025-24	12/8(月)	仙元山の絶景を堪能し葉山の寺社を巡る	森戸神社、仙元山・大山展望広場、玉蔵院	12/1(月)
2025-25	12/24(水)	漁師町の信仰 伊勢町観音と魚籃観音参拝	伊勢町観音、御所ヶ崎、魚籃観音、走水神社	12/17(水)
2025-26	1/14(水)	房総半島を眺めつつ水仙ロードを歩く	ペリー公園、旧千駄隧道、野比海岸、白髭神社	1/7(水)
2025-27	1/16(金)	浦賀レンガドックと常福寺の極楽地獄絵図拝観	浦賀レンガドック、西叶神社、常福寺(地獄極楽絵図)	1/9(金)
2025-28	1/24(土)	横須賀陸軍(要塞司令部・重砲兵聯隊)の足跡	重砲兵聯隊、不入斗練兵場、要塞司令部、米ヶ浜砲台	1/17(土)
2025-29	1/28(水)	花の御所を巡り城ヶ島の水仙を愛でる	海南神社、ウミウ展望台、馬の背洞門	1/21(水)
2025-30	1/31(土)	浦賀道見取絵図を巡る その4 衣笠から大津へ	曹源寺、妙真寺、天神坂、大津諏訪神社、信楽寺	1/24(土)
2025-31	2/4(水)	三浦一族の史跡と仏像を巡る	大善寺、満昌寺、近殿神社、清雲寺、満願寺	1/28(水)
2025-32	2/11(水)	横須賀の日本遺産と無人島猿島探検	ヴェルニー公園、旧横須賀製鉄所(遠望)、猿島、記念艦三笠	2/4(水)
2025-33	2/13(金)	葉山の梅の里から峰山	御用邸水源池、梅の古木、長者ヶ崎	2/6(金)
2025-34	2/21(土)	浦賀道見取絵図を巡る その5 大津から浦賀奉行所へ	貞昌寺、郷土資料館、叶神社、東福寺、常福寺	2/14(土)
2025-35	2/27(金)	鎌倉妙本寺から頼朝の夢永福寺跡へ	妙本寺、幕府跡、頼朝の墓、永福寺跡	2/20(金)
2025-36	3/7(土)	横須賀古道(浦賀みち)尾根道ハイキング	十三峠、按針塚、子育て地藏、見晴らし台、うぐいす坂	2/28(土)
2025-37	3/28(土)	春風舞う浦賀路から桜咲く千代ヶ崎砲台跡へ	東福寺、常福寺、燈明堂跡、千代ヶ崎砲台跡	3/21(土)
2025-38	3/30(月)	野比の里山花巡りから光の丘水辺公園ニリンソウ群生地へ	野比川沿い里山、YRP、光の丘水辺公園	3/23(月)
なお、本企画ガイドは予告なく変更される場合があります。				



浦賀道見取絵図を巡る(その一)

鎌倉から逗子

江戸から浦賀奉行所へと通じる“西回りの浦賀道”を「浦賀道見取絵図」で巡る5回シリーズ、初回ツアーを4月19日に実施した。66名が参加、7班に分かれて順次出発。浦賀道は、若宮大路を歩くが、今回は二ノ鳥居から、小町大路を日蓮宗の「東身延」とも呼ばれる本覚寺へ。裏門より若宮大路に出て、下馬交差点を左折し、



富士見橋

大町大路を北条時頼夫人開基の延命寺、北条政子縁の安養院、鎌倉公方の菩提寺別願寺(時宗)、日蓮布教に関わる、安国論寺・長勝寺などを参拝。

大町会館にて昼食休憩後、“名越の切通し”を越え三浦の地へ。切通しからの下りは、宅地造成や横須賀線敷設で、また逗子海岸線は、明治・大正時代の別荘地開発で、浦賀道はほとんど消滅。

往時の“田越橋”は嵐で流失し、明治27年再建時、名称が富士見橋に変更された。富士見橋からは、京急線逗子・葉山駅まで案内し終えた。

(秋本 達夫)

浦賀道見取絵図を巡る(その二)

逗子から葉山

爽やかな5月の風に乗っての開催。参加者52名のうち7組がグループ(友人・夫婦)。そして80歳越えの方も5名参加。

「浦賀道見取絵図を巡る」シリーズは是非とも完歩したいゲストが多く、初回に参加した方が半数を超えていた。

京急線逗子・葉山駅に

集合し、六代御前の墓を経由し、富士見橋からが本来の西の浦賀道である。銚子を越え旗立山・清浄寺を通過、当時の海岸線の街道を進み、滝の坂不動から新善光寺まで。



新善光寺

享保5年(1720)浦賀奉行所設置当時の風景を想像しながら、この道を歩いた多くの人の足音や、人々の声が聞こえるような一日を楽しんだ。

ガイドメンバーは、素晴らしいベテランぞろい。各自、日ごろの研鑽を発揮した。そして、ベテランに負けまいと新人も頑張ってくれた。ゴールの新善光寺では、ゲストたちの笑顔と拍手で終了した。

(星野 正樹)

深谷研修旅行

5月11日(日)、埼玉県深谷市の煉瓦工場跡と洪沢栄一関係史跡を見学する研修旅行を実施した。

今回訪問のメインである旧日本煉瓦製造(株)のホフマン窯は耐震工事を終え昨年6月から一般公開されていたが、本年6月から再び周辺整備工事が始まり、3年間ほど見学ができなくなるため急遽計画したものである。

中型バスで総勢20人、好天に恵まれ、渋滞もなく、朝7時半に横須賀を出発し、夕方6時に解散するまで、ほぼ予定どおりの行程を無事終えることができた。

ホフマン窯は全国に4基しか残っていないと言



われる貴重で、煉瓦造遺構の多い横須賀のガイドとして、は必見の施設。20分ほど早く着いたので、現地ガイドの方に丁寧に案内して頂け、大変勉強になった。

(富澤 武夫)

三浦一族講演会

7月5日(土)、逸見のまなびかんで三浦一族についての講演会開催。会場は45人の会員で埋まった。

講師には三浦一族研究会の副会長でもあり、「山城ガール」でお馴染みのむつみさんをお招きした。

講演冒頭、自己紹介も兼ねて、山城やそこに繰り広げられた歴史に惹かれた経緯を話され、振り返れば地元横須賀にも衣笠城や三浦一族の歴史があり、それに対する思いを伝えていきたいとツアーや講演会、町おこし等の活動を始めたというお話しがあった。

今回の講演では鎌倉幕府創設に貢献した三浦一族の活躍と、その本拠地である衣笠城の魅力についておさらいをした後、各地に守護や地頭として進出した三浦一族が遺した足跡をメインに語られた。

佐原十郎義連とその子孫の伝承が残る会津葦名氏、室町時代に三浦貞宗の系統が守護となり、その後江戸後期になって三浦家村の子孫が入部したとされる美作三浦氏、和田義盛の弟宗実の系統が移住した越後和田氏、和田合戦の後、義盛の六男義信が落ち延びたことに始まるという上野和田氏、安房から紀州藩家老となった紀州三浦氏など興味の尽きないお話しで三浦一族が遺した足跡の広がりを感じて実感した。

(富澤 武夫)